

2014年1月31日

1. 北部州の調査

上村専門家と DWST スタッフは、1月1日から3日にかけて北部州研修センターの現状調査と研修支援を実施しました。北部州水公社は2013年3月24日に堀江大使や JICA スーダン事務所の森所長他を招聘し、研修センターの起工式を実施しました。その後、北部州は研修センターの環境整備を実施し、日本が供与した機材を使用して研修を開始しました。今回専門家が訪問した1月1日はスーダンの独立記念日であるにもかかわらず北部州水公社はこの日から講師養成研修を実施していました。専門家と DWST のカウンターパートは日本が供与したパソコンにウイルス対策ソフトを導入するとともに、北部州の研修計画に関しても支援を行いました。



2. ナイル州水公社研修センターの開所式

2014年1月7日にナイル州において研修センターの起工式が開催されました。ナイル州はこれまで、州独自に研修を実施する環境を有していませんでしたが、2013年3月にイラン政府の融資によって建設された浄水場の事務所棟を研修センターとして利用することに決定しました。そして、JICA 専門家と DWST スタッフは度々この州を訪問し、研修センターの開設に向けた支援を実施してきました。

なお、ナイル州の水公社は2014年に大幅な人事異動を実施し、水公社の総裁と研修センター長の若返りを図りました。州水公社総裁と研修センター長は、いずれも旧 PWCT 及び DWST で数度にわたり研修を受けた研修生であることから、今後さらなる中央政府とナイル州との連携が強化される見込みです。



3. UNOPS との協議及び研修の実施

UNOPS は国際機関の中で最初に DWST との研修連携を実施した組織で、IOM、そしてアフリカ開発銀行も 2014 年 3 月から DWST に研修生を派遣することになっています。

UNOPS との協議は 1 月 19 日に実施されました。この協議は UNOPS の事業を評価するマレーシア人のコンサルタントによる各種質問形式で実施され、ダルフル地方で JICA が積極的にパイロット事業を実施していることが評価されました。また、ハルツームの DWST において、現地のニーズに合致した研修が実施されていると評価されました。同時に今後も DWST と UNOPS が連携してダルフルにおける給水分野の人材育成が展開されることへの期待が述べられました。



4. 青ナイル州知事との協議

2014 年 1 月 14 日に DWSU の総裁室で、青ナイル州知事及び州水公社総裁との協議が実施されました。青ナイル州はダルフル及び南コルドファン州と同様に日本の外務省の渡航禁止地域で、日本人が現地に出向くことは困難な現状です。しかし、2012 年には青ナイル州を対象とした緊急プロジェクトが実施され、ウォーターヤードの改修や雨水貯水施設建設のための資機材が州水公社に供与されました。青ナイル州水公社は様々な課題を乗り越えて、計画された施設を完成したと報告していますが、その後のフォローアップ調査が実施できていないことから現状は不明です。

このような状況下、今回青ナイル州知事と水公社の総裁がハルツームに出向き更なる JICA への支援を要請しました。特に 2013 年 3 月に完成したロセリエスダム の 10m にわたるかさ上げ工事の結果、住民移転により新たに 12 カ所の大規模村落が建設されました。これに伴い飲料水供給の実施が不可欠であることが述べられました。また、中国が青ナイル州に 54 本の井戸建設を実施したことも報告されました。



5. 衛生管理研修の実施

衛生管理研修は1月12日から16日にかけて実施されました。13州及びハワタプロジェクト、さらには中央のDWSUから4名の、合計19名が研修を受けました。スーダン18州の内、13州から研修生が参加したことは本コースへの関心の高さを示唆するものであり、同時に、旧水公社（PWC）から飲料水・衛生局と名称を変更したにもかかわらず、未だに衛生部門を設置していないDWSUから4名が参加したことはDWSUの危機感の現れでもあります。

研修講師は日本人専門家を含め4名で、講師にはUNICEFのWESプロジェクトで衛生を担当しているスタッフも選定されました。本コースに対する研修生のニーズは高いために今後様々な改善を実施し、パイロット州での研修を4年次に予定しています。

		
研修担当者との事前協議	オープニングセレモニー	研修風景

6. 中間レビューの支援

本プロジェクトの中間レビューは2014年1月12日から開始され、1月30日に終了しました。本レビューのために入国したコンサルタントは1月12日の入国早々業務を開始しました。各専門家は事前にコンサルタントから送付された質問事項に全て回答していたことから、専門家へのインタビュー時間は短縮されました。これに対して、評価コンサルタントはスーダン人関係者や国際機関との面談及び現地調査を主体に本プロジェクトの課題整理を実施しました。

本評価の団長は地球環境部の宮崎企画役であり、企画役は1月11日にスーダン入国後翌日からカッサラプロジェクトの終了時評価に参画しました。その後、1月20日にカッサラから白ナイル州に移動し、本プロジェクトの中間評価を開始しました。

1月29日に開催されたJCCにおいて中間レビュー調査団は、各種調査を通して明らかとなった本プロジェクトの課題を関係者に説明しました。指摘された課題は、新規研修センターの建設の遅れを早急に改善すること、モニタリング部署の設置とモニタリングの開始、関連機関の巻き込み及び衛生部門の設置等であり、これに伴い5回目のPDMの改定が実施されました。



7. 第6回 JCC の開催

第6回の JCC は 2014 年 1 月 29 日に開催されました。この JCC の目的は、中間レビューの報告会でした。参加者は 45 名であり、日本大使館、JICA スーダン事務所の他、DWSU、DWST、12 州及びハワタプロジェクトからの参加がありました。逆に不参加の州はナイル州、ゲダレフ州、コルドファン 3 州（北、南、西）及び西ダルフールの 6 州でした。

今回の JCC において、中間レビュー調査団は、本プロジェクトの妥当性は高いものの、スーダン側の活動や PDM の指標に一部課題があると指摘しました。しかしながら、中間レビューで指摘された 5 項目の提言は、2015 年 3 月に予定されている終了時評価調査までには十分対応可能と想定される内容です。中間レビュー調査団の説明に対して、JCC のメンバーからは特に異論が出されなかったことから、本調査のミニッツが宮崎企画役とアマル総裁との間で署名されました。



8. 第1回モニタリングワークショップの開催

第6回の JCC が開催された 1 月 29 日の午後から、第1回のモニタリングに関するワークショップが開催されました。JICA 専門家は当面の課題であるモニタリングフォーマット(案)を作成し、内容の説明会を DWST に提案しました。その結果、今回のワークショップで関係者と情報交換することになりました。

参加した各州水公社の関係者はモニタリングの重要性に関して十分に認識していました。そして、専門家が提案した統一フォーマットによるモニタリングの実施に対しても理解を示しました。しかしながら、DWST が実施する研修に関するモニタリングは確実に実施される見通しですが、DWSU の担当分である各州の給水施設、州水公社の動向、国際機関や他ドナーによる各プロジェクトの実施状況については課題が山積しています。



9. 井戸管理研修

大鹿専門家の井戸管理研修は1月19日から白ナイル州の Wad El Kriel 村井戸(1/21~28)と Al Kawa 村井戸(1/29~2/6 予定)で実施されました。本プロジェクトにおいては井戸管理研修のみが現場実習を主体に実施されており、対象村落の既存井戸の能力改善に大きな貢献をしています。また、研修に際してはスーダン側スタッフが現場に常駐し作業を進めていました。この他、研修生とは別に電気、機械のエンジニアもチームに加わり、彼らも研修生を指導しながら良いチームワークで研修を実施していました。

第3回の白ナイル州での井戸管理研修には講師が3名、研修生11名が参加しました。この研修成果は2月分の月報に取りまとめられます。なお、1月25日には中間レビュー調査団がワドエルクレエル村の井戸管理研修を視察しました。



10. 電気管理研修

木村専門家による電気管理研修は白ナイル州とセンナール州でそれぞれ実施され、今回はコントロールパネルの操作や修理に関するテーマを主体に実施されました。この研修には桑野協力隊員も研修補助員として協力しました。

本研修においては、白ナイル州から13名、センナール州から7名が参加しました。また、研修コースの評価としては、白ナイル州が89%、センナール州が約99%満足していて、スーダン側の貢献度に関してはそれぞれが90%台であり平均以上となっています。

なお、各州水公社に配属されている電気関連技術者は少数であるものの、日常的にポンプやコントロールパネルのトラブルが発生していることから、この分野の人事育成は緊急の課題となっています。



11. パイロット州におけるモニタリングのワークショップ

2008年から2011年まで実施された本プロジェクトのフェーズ1と現在実施中のフェーズ2を通して、給水分野の人材育成が進められているものの、スーダンの給水事情の改善を計るモニタリング体制の構築までは着手されていませんでした。その一つの要因として、2011年に着工が予定されていた新規研修センターの建設の遅れによる、DWSTの物理的なキャパシティー強化への影響が挙げられており、これによりモニタリング部門の設置が困難でした。しかしながら、本プロジェクト期間は4年間と限られており、プロジェクトの期間内でのモニタリングシステムの構築は急務でした。そこで、DWSU、DWSTおよびJICA専門家は、DWSUが新規研修センター建設の着工を表明した2014年1月を期に、モニタリング体制の構築へ着手しました。

本ワークショップでは、パイロット州であるセンナール州と白ナイル州水公社を対象として、上記のモニタリング項目の妥当性と手法、モニタリング頻度を主体とした討議を行いました。



(略語説明)

DWSU： Drinking Water and Sanitation Unit (飲料水・衛生局)

DWST： Drinking Water and Sanitation Unit Training Center (飲料水・衛生局研修センター)

UNOPS： United Nations Office for Project Services (国連プロジェクトサービス機関)

JCC： Joint Coordination Committee (合同調整委員会)

PDM： Project Design Matrix (プロジェクト・デザイン・マトリックス)

WES： Water, Environment and Sanitation (水と環境衛生プロジェクト)